

# 伊澤修二と台湾(その2)

## 教育による近代化への貢献

### 芝山巖の悲劇

1896(明治29)年正月、台湾で亡くなった師団長北白川宮しだんちやう きたしろがわみやのお伴として伊澤が帰国している間に、悲劇は起こりました。

日本に反発する人々が芝山巖に押し寄せてきたのです。そのとき、芝山巖には伊澤に付き従って来た楢取道明かじとみちあき、関口長太郎せきぐち ちやうたろう、中島長吉なかじま ちやうきち、桂金太郎かぎ きんたろう、井原順之助いはらの じゆんすけ、平井数馬ひらい すまの6名の教師がいました。(六氏先生)ろくしせんせい(資料28) 暴動を心配して、逃げるように勧めた台湾の人々もいましたが、教師の一人、楢取は「ここで逃げてしまうと、私たちはうそを教えてきたことになる」と言って、押し寄せる人々を説得しようとした。しかし、群衆は6名に襲いかかり、殺してしまったのです。

伊澤は6名の死を東京で知り、たいへん悲しみましたが、「この6名が亡くなったために教育が盛んになってほしい」と語り、台湾の教育をいっそう進めていく覚悟を新たにしました。伊澤は、6名の遺骨を芝山巖に葬りました。7月には総理大臣伊藤博文いとうひろふみの書で「学務官僚遭難之碑」がくむくわんりやうそうなんのひ(資料29)と書かれた石碑が建てられました。



資料28 六氏先生  
前列左から桂、楢取、関口  
後列左から中島、井原、平井  
『台湾総督府学務官僚遭難六氏十年祭報告』1905年



資料29

「学務官僚遭難之碑」  
蒋介石の国民党政権時代は倒されていたが、李登輝總統の時代、2000年に復元された。

### 国語伝習所と公学校

4月に再び台湾を訪れた伊澤は、学校をつくる仕事に取り組みました。まず、14か所ほどに「国語伝習所」(資料30)を置きました。1か所につき生徒は100名ほどです。「国語」とは日本語のことで、日本語教育の重要性が感じられる名称です。「国語伝習所」ができたばかりの台湾では就学率しゅうがくりつは高くありませんでしたが、台湾総督府が進めた教育無償政策や日常生活の中で日本語を必要とすることが多くなったことひしやうもあって、学校に通う子ども(資料31)は増えていきました。

1898(明治31)年、「公学校」と改称され、国語だけでなく算術や唱歌、体操も学びました。



資料30

国語学校(国語伝習所)  
『台湾写真帖』  
台湾総督府官房文書 課編 1908年



資料31

国語伝習所の修了証  
『台湾教育沿革誌』  
台湾教育会編 1939年

### 共通語としての日本語そして「混和主義」

伊澤が進めた台湾教育は、日本への一方的な「同化政策」どうかだとする批判もありますが、台湾に学校教育の基礎が作られ、国語伝習所や公学校が広く普及することで共通言語として日本語が広がり、識字率が向上するなど台湾の近代化につながったとする評価もあります。

その後、伊澤は台湾総督府の予算の削減に反対して、学務部長を辞めてしまいます。しかし、伊澤が進めた「わが国語(日本語)を彼(台湾)に教え、彼の言葉をわれに習うということは融和(仲良くすること)の第一着」という「混和主義」こんわしぎは大切な方針としてこの後も続いていきました。また、伊澤は、帰国後、貴族院議員の立場で、台湾の教育が順調に進むよう、支援を惜しみませんでした。

### おわりに

1895(明治28)年、伊澤が台北土林の芝山巖に開いた学堂はその後「士林公学校」となりました。現在の「台北市士林区士林国民小学」(資料32、33)で、1995年には開校100周年を迎えました。伊澤は「創校者」として、今でもこの学校に学ぶ子どもや先生から尊敬を集めています。伊澤の台湾滞在は2年足らずでしたが、持ち前の行動力で切り開いた教育制度は台湾の近代化に大きな役割を果たしました。



伊澤修二先生



本校創校者

資料32

創校者伊澤修二先生  
記念專輯編輯委員会編  
『士林國小壹百年記念專輯』  
1995年



資料33

台北市士林区士林国民小学  
記念專輯編輯委員会編  
『士林國小壹百年記念專輯』1995年